



りえぞん

Liaison

vol.60

独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

令和7年5月

医療関係者の皆様へ

「りえぞん」(Liaison) とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。

奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで名付けました。

病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します
患者第一、安心安全な先進医療を提供します

令和7年度 病院目標

呼吸器疾患と神経疾患を中心とした
「面倒見のいい病院」の機能を高める



Contents

●新しい年度を迎えて	2	●パープルデー企画：JR奈良駅旧駅舎のライトアップ	4
●新任・着任のご紹介	3		
●全国てんかんセンター協議会総会に参加しました	4	●春の健康祭りが開催されました	4

新しい年度を迎えて

副院長 玉置 伸二



新年度を迎えるにあたり、ご挨拶を申し上げます。副院長の玉置と申します。今年も奈良医療センターに桜の季節がやってきて、4月5日には満開の桜の元で「春の健康まつり」が行われ、地域の皆様を中心に多くの方々に当院を訪れて頂きました。本当に嬉しい気持ちで一杯でした。私が当院に赴任しましてから早くも14年が経過しようとしていますが、この春の絶景には毎年驚かされ、また気持ちを新たにすることができます。4月1日には新採用および配置換えを含めて39名の新しい職員を迎えることができました。院内に新しい風を運んでくれることを期待しています。また4月13日からは大阪・関西万博が開催されており、盛り上がりをみせています。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルス感染症も峠を越してはいますが、当院では長年培ってきた結核対策のノウハウを生かしながらこの感染症に積極的に取り組んで参りました。現在は「ポストコロナ」の感染症対策が必要となっていますが、ノロウイルス感染症やヒトメタヌーモウイルス感染症などへの対策に頭を悩ましているのが現況です。今後は行政からも「新興感染症」への対策も求められているところですので、気を引き締めて今後もこれらの感染症には取り組んでいきたいと思います。

さて当院では毎年病院の基本方針を定めていますが、今年度は『呼吸器疾患と神経疾患を中心とした「面倒見のいい病院」を目指す』としています。「面倒見のいい病院」とは、患者様の生活全体を支える機能をもつ、「患者様にとって“面倒見のいい病院”」であり、地域包括ケアシステムを支える病院です。

当院では結核医療や重症心身障害者医療、筋ジストロフィーをはじめとする神経難病に対する医療など政策医療を行っており、これらを充実させることが当院の使命となっています。そのほかてんかんを含めた脳神経疾患、呼吸器・アレルギー疾患など当院が得意とする分野で、この地域の医療に貢献したいと考えています。

当院ではこのように政策医療も担っており、皆様におかれましては少し「敷居の高い」印象を持たれているかもしれません。また当院のごく近隣に高度急性期病院である奈良県総合医療センターが立地していることも考えていく必要があります。これからは当院の特色を生かしつつ、奈良県総合医療センターや地域の医療機関・介護事業所の皆様とより連携して、「面倒見のいい病院」として地域全体の健康を支えるための活動に力を注いでいきたいと思います。在宅からの受け入れ、また当院入院患者さんの在宅への復帰支援にも取り組んでいきたいと思います。

医療の現場は常に変化しており、私たちもその変化に柔軟に対応していく必要があります。私たちは患者様の健康と安全を最優先に考え、地域社会に貢献する医療機関としての役割を果たしてまいります。そのためにも健全な経営を行い、安定した医療を提供することも必要となります。皆様のご意見を積極的に取り入れ、より良い医療機関を築いていくために努力してまいります。

今回の「春の健康まつり」と同様に、これからも患者様や皆様を「とびっきりの笑顔で」お迎えしたいと思います。そのためには、まずは職場環境の整備に努め、職員の心身の健康を保つことにも留意していきたいと思います。どうか今後とも奈良医療センターをよろしくお願ひ致します。



新任・着任のご紹介

管理課長 中塚 真太



このたび2025年4月1日付で、国立病院機構近畿グループ（大阪市）から異動して参りました管理課長の中塚と申します。

これまで、奈良県・大阪府・京都府・兵庫県の8施設を転々とし、奈良医療センターは12年ぶり2回目の勤務になります。

事務部に管理課長というポストが新設され、私が担うこととなりましたので、一日も早く病院に慣れまして、奈良医療センターをより良く出来るように努力して参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

副薬剤部長 小田 亮介



2025年4月1日付で着任いたしました、副薬剤部長の小田亮介と申します。5回目の異動ですが初めての奈良県での勤務となり、不安な面もありますが、これまでの経験を生かし、一日も早く奈良医療センターの一員として職を全うできるよう精進いたします。

「薬があるところに薬剤師」の精神で、地域医療に貢献できる薬剤部を目指して参りますので、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

薬について、お困りのことがあれば気軽にお声掛け頂けましたら幸いです。

診療放射線技師長 北川 智彦



このたび、大阪医療センターより奈良医療センターへ赴任し、診療放射線技師長を拝命いたしました北川智彦です。当科では、国立病院間の人事交流により、様々な専門領域に対応できるスタッフが在籍しており、それぞれの経験を活かした安心で質の高い臨床画像の提供を強みとしてあります。CT・MRI検査は地域医療連携室を通じてぜひご活用ください。今後とも信頼される放射線医療を目指し、努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

副看護部長 本田 千晴



4月より副看護部長として着任いたしました。着任時、当院の満開の桜に心が癒され、活力を注入された気持ちになりました。病院の理念である「質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより信頼される病院」を目指し、私が感じた気持ちと同じく地域の患者様の心が安らぎ、満足していただける看護を目指していきたいと思っております。患者様の声に耳を傾け、スタッフと共に成長し、地域医療に貢献できるよう鋭意努力いたします。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

療育指導室長 田中 真史



療育指導室長の田中と申します。奈良では以前にも、約4年間勤務をしてありました。懐かしい気持ちと、改めて患者さんや福祉サービスの利用者さん方の力になるよう頑張って参ります。当院では、重度の障害がある方々が充実した生活を過ごしていただけるように、長期の入院やショートステイ、日中のデイサービス等、障害福祉サービス等を提供しています。そして、療育指導室のスタッフには、保育士と児童指導員があり、他の医療スタッフとともに、患者さんや利用者さんに対して、日中活動や発達支援、ケースワーク、ソーシャルワーク等を実施しています。わからないことやご相談したいことがありましたら、是非お声掛けください。

全国てんかんセンター協議会総会に参加しました

MSW 辻 友博

第12回 全国てんかんセンター協議会総会（JEPICA 2025金沢大会）がR7年3月22日・23日の2日間で開催され、全国のてんかんセンターを持つ病院の関係者が一同に集まり、研究発表や報告を行いました。当院からも薬剤部とコーディネーターからポスター発表を行い、薬剤部の三嶋先生が優秀賞を頂きました。

当院は奈良県の拠点施設でもあり、今後も多職種の連携を通して包括的なてんかん診療の提供の実現に取り組んでいきます。



パープルデー企画：JR奈良駅旧駅舎のライトアップ

診療部長 澤井 康子

みなさん、パープルデーをご存じですか。3月26日は、紫色（パープル）のものを身につけて、「てんかん」という病気への理解を深め、「あなたをひとりにしない、応援しています」というメッセージをあくまであう日です。今年は、てんかん支援拠点病院である当院の企画で、JR奈良駅旧駅舎をライトアップしました。古都にふさわしい、莊厳な輝きと祈りに満ちていました。



春の健康祭りが開催されました

医事専門職 山中 幸紀

令和7年4月5日（土）桜が綺麗に咲きほころぶ中、六条校区まちづくり協議会と共に、健康測定や催し物が行われました。外来待合スペースでは身長体重測定、血管年齢測定、骨密度測定、栄養相談、調剤体験が実施され、大会議室では永田院長の挨拶、田村診療部長によるてんかんに関する健康講座が行われ、その後六条校区まちづくり協議会の催し物として、六条大学の演奏や京西銭太鼓、南京玉すだれ、落語などが披露されました。

参加者からは、測定の機会が貴重で良かったとの声や、今後の定期的な開催を希望する意見が寄せられました。

